

科目名	人間の理解A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎を習得できるよう講義する。						
一般目標	1. 人間の尊厳と人権・福祉理念を理解できる。 2. 自立の考え方を理解できる。 3. 多様な対人援助関係の場面におけるコミュニケーションの基礎が理解できる。						
テキスト	「1 人間の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人権の歴史的展開、福祉理念の変遷について説明できる。							
技術(精神運動領域) グループワーク(演習)学習で、多様な場面でのコミュニケーション技法を実施できる。							
態度(情意領域) 自分の行動をふりかえることができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	導入			授業概要、一般目標及び授業の進行に関する説明		講義 演習	
2	第1章 人間の尊厳と自立			第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念		講義 演習	
3	第1章 人間の尊厳と自立			第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念		講義 演習	
4	第1章 人間の尊厳と自立			第2節 自立のあり方		講義 演習	
5	第1章 人間の尊厳と自立			第2節 自立のあり方		講義 演習	
6	第2章 人間関係とコミュニケーション			第1節 人間と人間関係		講義 演習	
7	第2章 人間関係とコミュニケーション			第1節 人間と人間関係		講義 演習	
8	第2章 人間関係とコミュニケーション			第1節 人間と人間関係		講義 演習	
9	第2章 人間関係とコミュニケーション			第2節 対人関係におけるコミュニケーション		講義 演習	
10	第2章 人間関係とコミュニケーション			第2節 対人関係におけるコミュニケーション		講義 演習	
11	第2章 人間関係とコミュニケーション			第3節 対人援助関係とコミュニケーション		講義 演習	
12	第2章 人間関係とコミュニケーション			第3節 対人援助関係とコミュニケーション		講義 演習	
13	第2章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織におけるコミュニケーション		講義 演習	
14	第2章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織におけるコミュニケーション		講義 演習	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			10	
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員	高木 秀是	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	-------	--------	---	---

科目名	レクリエーション			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について理解し、実践を通し、レクリエーション支援の役割と必要性を考える講義とする。						
一般目標	1. 福祉分野で実際にレクリエーション支援を実施できるようになるための知識・技術を修得する。 2. レクリエーション支援の実際の体験するとともに、チーム支援において重要な、合意形成能力を高める。 3. 介護福祉士としてレクリエーション活動の必要性を理解し、支援者として自己課題を見出す。						
テキスト	参考文献:「レクリエーション介護士2級 公式テキスト<第3版>」(株式会社スマイル+・カンパニー) 「福祉レクリエーション総論」(中央法規)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)
介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について理解できる。

技術(精神運動領域)
レクリエーション支援の実際と役割、活動の実際を理解し、実践できる。

態度(情意領域)
主体的に参加することができる(GW・企画書作成・レクリエーション実施)。

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
1	レクリエーションとは	レクリエーションの意義、海外、日本のレクリエーションの歩み	講義	
2	福祉レクリエーションの重要性	福祉レクリエーションとはなにか。福祉レクリエーションの重要性について	講義	
3	ホスピタリティ・アイスブレイクについて	レクリエーション支援に必要なホスピタリティとホスピタリティレーニング演習。アイスブレイクの効果	講義 演習	
4	アイスブレイクの実際	様々なアイスブレイクの効果と実演	講義 演習	
5	レクリエーション支援者として	支援者としての思考・態度・心構えについて	講義 演習	
6	レクリエーション援助プロセスA-PIEについて	意義・目的とA-PIE構成要素の具体的な内容について	講義	
7	レクリエーション援助プロセスアセスメント準備	レクリエーション実施施設の概要を調べる。情報収集の確認	講義 演習	
8	情報収集	計画立案にあたり施設訪問し情報収集を行う	実習	
9	情報収集・アセスメント	計画立案にあたり施設訪問し情報収集を行う アセスメントを行う	実習 GW	
10	企画書作成	アセスメントをもとに計画書を作成	GW	
11	実施準備	レクリエーション実施に向け必要物品の準備	GW	
12	実施	施設で高齢者を対象に学生主体のレクリエーションを行う	実習	
13	実施	施設で高齢者を対象に学生主体のレクリエーションを行う 施設職員講評	実習	
14	実習の振り返り・評価	各担当教員と計画・実施について振り返る レクリエーション評価についての説明	講義 GW	
15	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			20	
授業態度					
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員	松澤 可奈子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	--------	--------	---	---

科目名	国語表現			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護で使われる言葉に焦点を当て、専門用語を意味、使用方法とともに紹介する。 国家試験問題の理解、正しい解答が導き出せるよう、語彙の確認と文章理解の講義・演習を行う。 実際に書く時間を設け、添削指導を行う。						
一般目標	1. コミュニケーションの重要性を理解し、会話と専門用語の違いを知って、言葉を使うことができる。 2. 介護に関する基本的な言葉(専門用語)を理解する。 3. 場面に応じた声掛けについて知り、臨機応変に声掛けができるようになる。 4. 実習日誌の重要性を理解し、項目に合った内容を書くことができるようになる。						
テキスト	レジュメ・プリントで対応						

到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護に関する専門用語、よく使用される語彙とその意味を理解し、適切に使用、説明することができる。 記録の意義を理解し、説明できる。 専門用語を覚え、他の同じ意味の言葉など様々な表現を知り、使用することができる。 話を聞いて理解し、話の内容を説明することができる。							
技術(精神運動領域) 場面に応じた声かけができる。 口に出して言える。 話し言葉と書き言葉の相違を理解し、記録を書くことができる。 専門用語を活用し、記録として書くことができる。							
態度(情意領域) 演習に主体的・積極的に参加することができる。 積極的にレジュメ・プリントを読む。							

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
1	言葉の重要性・介護の言葉の理解	日本語テスト 介護の日本語・介護福祉士国家試験問題の練習	試験 講義	
2	話し言葉・書き言葉、敬語表現	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 話し言葉と書き言葉の相違点、敬語の種類と使い方	講義	
3	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家権問題練習 起床・食事の際の声かけ、俳句	講義 演習	
4	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 排泄・入浴の際の声かけ、和歌(短歌)	講義 演習	
5	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 就寝の際の声かけ、総復習、語源	講義 演習	
6	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 丁寧な声かけ、よくない声かけ、流行語	講義 演習	
7	記録の理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 記録の意義、留意点、原稿用紙の使い方	講義	
8	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録の書き方、よく使う言葉とその意味の確認、慣用句	講義	
9	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録を読む、書かれてあることの読み取り、文の組み立て	演習	
10	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録を読む、書かれてあることの読み取り、発想	演習	
11	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 記録によく使われる表現について、主観と客観	講義	
12	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題 話したことを書いてみる、四字熟語	講義 演習	
13	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題 会話を記録にする、所感のまとめ方	講義 演習	
14	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 お礼状の書き方	講義 演習	
15	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)					
担当教員	久賀 菜穂子	実務経験紹介	無		

科目名	介護の基本Ⅰ－1			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活に継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
一般目標	1. 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。 2. 介護を必要とする人を生活する人として受けとめ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、その人らしさ(個別性)を大切にすることなどを学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを理解し説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方などを理解し実践する。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	生活を理解する上で大切な視点		生活とは何か 介護とは何か			講義 GW	
2	介護福祉を必要とする人の理解		私たちの生活の理解 介護福祉を必要とする人たちの暮らし			講義	
3	介護福祉を必要とする人の理解		その人らしさと生活ニーズの理解 生活のしづらさの理解とその支援			講義	
4	さまざまな生活の違いがあることの理解 □		周囲の人にインタビューし、その結果について、共通点や相違点など、気づいたことをグループでまとめる。			講義 GW	
5	対人関係形成技術		共感的理解と基本的態度の習得(自己覚知) レポート提出			講義 DVD	
6	介護福祉士の役割と機能		介護福祉士の活動の場と役割 社会福祉士及び介護福祉士法			講義	
7	介護福祉士の役割と機能		介護福祉士養成カリキュラムの変遷 介護福祉士を支える団体(倫理綱領)			講義	
8	高齢者や障害のある人の理解		重度の身体障害のある人が一人旅に出ようとした場合、どのような準備や手配、確認があるかを当事者の立場になって考えることで、社会参加の難しさと大切さを理解する。			GW 発表	
9							
10	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 防府市立図書館に行き関連文献を検索する。			講義 GW	
11	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
12	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
13	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
14	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
15	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。	GW	
17	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (発表)	GW 発表	
18	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (発表)	GW 発表	
19	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (発表)	GW 発表	
20	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (まとめ)	講義 GW	
21	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義 GW	
22	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義	
23	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義	
24	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義	
25	介護福祉士の倫理	クローズアップ現代「認知症ケア/ユマニチュード」	講義 DVD	
26	生活障害の理解と生活ニーズ	奇跡の人～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語」視聴	講義 DVD	
27	生活障害の理解と生活ニーズ	奇跡の人～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語」視聴	講義 DVD	
28	事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理	介護福祉士の専門性について	講義 GW	
29	総まとめ	試験について説明 全体の振り返り	講義	
30	期末試験	筆記試験 振り返り	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト						
課題レポート		○	○		5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術)				○	10	
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	コミュニケーション技術A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護におけるコミュニケーションの意義や目的、基本視点、技法を講義する。						
一般目標	1. 介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術が理解できる。 2. コミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法が理解できる。 3. 事例を用いた演習を通し、コミュニケーション技法を習得する。						
テキスト	「5 コミュニケーション技術」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護におけるコミュニケーションの意義や技法が説明できる。							
技術(精神運動領域) 介護場面において、利用者や家族と円滑にコミュニケーションを図るための技法を修得する。 チーム力を高めるコミュニケーションの方法を修得する。							
態度(情意領域) 授業に主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換等)。 授業の事前準備ができる(テキスト等の準備、ファイルでの整理整頓等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護におけるコミュニケーションの基本①			介護におけるコミュニケーションとは		講義 GW	
2	介護におけるコミュニケーションの基本②			介護におけるコミュニケーションの対象		講義 GW	
3	介護におけるコミュニケーションの基本③			援助関係とコミュニケーション		講義 GW	
4	コミュニケーションの基本技術①			コミュニケーション態度に関する基本技術①		講義 GW	
5	コミュニケーションの基本技術②			コミュニケーション態度に関する基本技術②		講義 GW	
6	コミュニケーションの基本技術③			言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本		講義 GW	
7	コミュニケーションの基本技術④			目的別のコミュニケーション技術		講義 GW	
8	コミュニケーションの基本技術⑤			集団におけるコミュニケーション技術		講義 GW	
9	対象者の特性に応じたコミュニケーション①			コミュニケーション障害への対応の基本		講義 GW	
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション②			視覚障害、聴覚障害のある人への支援		講義 GW	
11	対象者の特性に応じたコミュニケーション③			構音障害のある人、失語症の人への支援		講義 GW	
12	対象者の特性に応じたコミュニケーション④			認知症の人への支援		講義 GW	
13	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤			うつ病、抑うつ状態、統合失調症の人、知的障害のある人への支援		講義 GW	
14	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥			発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害のある人への支援		個人 ワーク	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)			○	5	
担当教員	佐藤 正昭		実務経験紹介	無	

科目名	生活支援技術Ⅰ－1			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護利用者がその人らしい生活を継続し、自立を支援できる方法を理解し提供できる力を養う。						
一般目標	1. 生活支援とは何か、基本的な考え方が理解できる。 2. 居住環境整備、家事支援における介護技術が理解できる。 3. その人らしい生活支援の方法が理解できる。						
テキスト	「6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 生活支援のポイントや自立した家事支援について説明できる。 安全な居住空間について説明できる。 適切な福祉用具を選べる。							
技術(精神運動領域) 介護計画を理解し計画に沿った家事支援ができる。							
態度(情意領域) 主体的にGWに参加できる							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	生活とは何か		生活を理解する			講義	
2	生活とは何か		生活支援の基本的な考え方			講義	
3	生活支援と福祉用具の活用		福祉用具とは			講義	
4	生活支援と福祉用具の活用		生活で福祉用具を活用する視点			講義	
5	居住環境の整備		居住環境の意義と目的			講義	
6	居住環境の整備		安心で快適な生活の場づくり			講義	
7	居住環境の整備		在宅生活を続けるための環境整備			GW	
8	家庭生活にかかる基礎知識		家庭生活の理解			講義	
9	家庭生活にかかる基礎知識		家庭生活の営み			講義	
10	家事の介護		家事支援の意義と目的			講義	
11	家事の介護		家事支援における介護技術			講義 GW	
12	家事の介護		家事支援における介護技術			講義 GW	
13	家事の介護		家事支援における介護技術			講義 GW	
14	緊急時の対応・まとめ		緊急時の対応・まとめ			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)					

担当教員	伊東 典子	実務経験紹介	無	
------	-------	--------	---	--

科目名	生活支援技術Ⅱ－1			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を養う。						
一般目標	1. 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援の基礎的な知識・技術を修得する。 2. 実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)「高齢者ケアガイドライン改正版」(一般社団法人 山口県介護福祉士会)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者の安全に配慮した支援方法を説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の自立を踏まえ、生活行為ごとの基本的な介護の原理を活用して技術展開できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	生活支援技術とは		実習室の使用について 介護の原則			講義	
2	自立に向けた移動の介護 ①歩行の介助		平地歩行・見守り歩行 立ち上がり・座位姿勢の原則			講義	
3	自立に向けた移動の介護 ②歩行の介助		杖歩行 2動作歩行と3動作歩行・障害物越えの介助			演習	
4	自立に向けた移動の介護 ③歩行の介助		階段の上り下りの介助 歩行のための福祉用具			演習	
5	自立に向けた移動の介護 ①車いす介助		車いすの基本的な使い方 車いすでの移動の介助(平地走行・エレベーター)			演習	
6	自立に向けた移動の介護 ②車いす介助		段差越え・スロープ(上り・下り) 屋外での走行			演習	
7	自立に向けた身じたくの介護 ②整容・衣服の着脱		整髪の介助 バイタルサインのチェック			演習	
8	自立に向けた身じたくの介護 ②衣服の着脱		座位姿勢での着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン) 片麻痺を想定した着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン)			演習	
9	自立に向けた食事の介護		食事のための環境づくり 食卓で行う食事の介助			演習	
10	自立に向けた食事の介護		とろみ材を使用した食事・見守り介助・一部介助			演習	
11	休息・睡眠の介護 ①ベッドメイキング		方法と留意点 2人で行うベッドメイキング			演習	
12	休息・睡眠の介護 ②ベッドメイキング		2人で行うベッドメイキング			演習	
13	確認テスト		ベッドメイキング技術チェック			演習	
14	確認テスト		ベッドメイキング技術チェック			演習	
15	自立に向けた移動・移乗の介護		起居動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり動作)			演習	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	自立に向けた移動・移乗の介護	体位変換の介助(仰臥位から側臥位)	演習	
17	自立に向けた移動・移乗の介護	水平移動・平衡移動	演習	
18	自立に向けた移動・移乗の介護	ベッドから車いすへの移乗介助 片麻痺のある利用者の介助	演習	
19	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすからベッドへの移乗介助 片麻痺のある利用者の介助	演習	
20	確認テスト	ベッドから車いす移乗の技術チェック	演習	
21	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	入浴準備 個浴での介助方法	演習	
22	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	特殊浴槽(機会浴)を使用しての入浴介助	演習	
23	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	洗髪準備・洗髪介助 浴室以外での洗髪方法	演習	
24	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	洗髪準備・洗髪介助 浴室以外での洗髪方法	演習	
25	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	清拭準備 手浴・足浴	演習	
26	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	全身清拭	演習	
27	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	清拭準備 陰部清拭	演習	
28	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	清拭準備 陰部清拭	演習	
29	振り返り	介護技術の振り返り	演習	
30	期末試験	筆記試験・振り返り	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト						
課題レポート		○			5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術等)			○		40	
担当教員	松澤可奈子 山本芳徳		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	介護総合演習A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。						
一般目標	1. 実習に向かうために必要な知識や技術を修得する。 2. 協働する専門職専門性について理解する。 3. 利用者のさまざまな暮らしを理解する。 4. 実習の振り返りを通じ、利用者理解や、専門職としてのあり方を深める。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規)「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者の様々な暮らしと実習の振り返りを通じ、専門職としてのあり方について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうために必要な知識や技術を修得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	介護総合演習とは		授業内容の説明、実習の目的・内容・期間等 介護福祉士の仕事(DVD)視聴			講義	
2	介護実習Ⅰ－1について		実習要項・実習の心得 緊急連絡先の確認			講義	
3	施設理解		通所介護、通所リハビリテーション グループホームについて調べる			講義	
4	実習準備		1, 2年生実習交流会 2年生から実習体験談などを聞く交流会			講義 演習	
5	実習準備		実習誓約書・個人票作成 記録物の配布・実習記録の記入方法の説明			講義	
6	グループミーティング		各担当教員より事前訪問、実習についての説明			講義	
7	結団式(通所)		実習に向けての結団式・伝達事項の確認				
8	実習の振り返り		礼状・申し送り票の作成 自己評価・技術チェック表の記入			講義	
9	施設を理解する		介護福祉士の仕事(DVD)視聴			講義	
10	実習準備		実習誓約書・個人票の作成 実習記録の振り返り			講義 演習	
11	グループミーティング		各担当教員より事前訪問、実習についての説明			講義	
12	実習準備		介護技術の復習			演習	
13	結団式(GH)		実習に向けての結団式・伝達事項の確認				
14	実習の振り返り(後指導)		礼状・申し送り票の作成 自己評価・技術チェック表の記入			講義	
15	期末試験		筆記試験・振り返り			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)	○			5	

担当教員	山本 芳徳	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	-------	--------	---	---

科目名	発達と老化の理解A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を修得できるよう講義する。						
一般目標	1. 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する。 2. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について理解する。						
テキスト	「12 発達と老化の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人間の発達段階と発達課題について説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識			成長・発達の考え方 成長・発達の原則・法則		講義	
2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識			成長・発達に影響する要因		講義 演習	
3	第2章 人間の発達段階と発達課題			発達理論 発達段階と発達課題		講義	
4	第2章 人間の発達段階と発達課題					講義	
5	第2章 人間の発達段階と発達課題			身体的機能の成長と発達		講義	
6	第2章 人間の発達段階と発達課題			心理的機能の発達		講義	
7	第2章 人間の発達段階と発達課題			社会的機能の発達		講義 演習	
8	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期の定義		講義	
9	第3章 老年期の特徴と発達課題			老化とは		講義	
10	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期の発達課題		講義	
11	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期をめぐる今日的課題		講義 演習	
12	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう身体的な変化と生活への影響		講義	
13	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう社会的な変化と生活への影響		講義	
14	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう心理的な変化と生活への影響		講義 演習	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト						
課題レポート						
授業態度						
演習(GW、技術等)		○		○	20	
担当教員	田中 恵美子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	認知症の理解A				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象		有		
授業概要	医学的側面からみた認知症の基礎を説明し、認知症の人への関心や興味が高まるように授業を進める。認知症の人とかかわる際に、介護福祉士として専門性を発揮できるよう知識の定着に努める。							
一般目標	1 認知症の原因疾患、中核症状、BPSD、治療、予防について理解する。 2. 認知症の人の困難さを理解し、認知症ケアの視点を理解する。							
テキスト	「13 認知症の理解」(中央法規)							
到達目標(行動目標)								
知識(認知領域) 認知症の疾患、症状、治療、予防について説明する。								
技術(精神運動領域) 認知症の人のケアを模倣する。								
態度(情意領域) 認知症の人の困難さを感じ、認知症の人へ配慮する。								
回数	項 目			内 容			授業 学習方法	備考
1	認知症とは何か			認知症の定義と診断基準 生活障害 症状の全体像 特徴			講義 演習	
2	脳の仕組み			脳の構造・機能 病理 うつ 老化と認知症の関係			講義 演習	
3	認知症の人の理解			不安・喪失感 不安・うつと病識低下 不安・うつの病態			講義 演習	
4	中核症状の理解			中核症状 記憶障害 見当識障害 遂行機能障害 空間認知障害 社会脳 失語・失行・失認 病識低下 神経症状			講義 演習	
5	生活障害の理解			生活障害 IADL障害 ADL障害 家庭内での家族との関係 社会参加			講義 演習	
6	BPSDの理解			BPSDの定義 BPSDの要因 BPSDの誘因 主要なBPSD			講義 演習	
7	認知症の診断と重症度			診断 認知症の重症度判定			講義 演習	
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害			アルツハイマー型認知症 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 治療可能な認知症 若年性認知症 認知症の原因疾患の鑑別			講義 演習	
9	認知症の治療薬			神経伝達物質の基礎的理解 アルツハイマー型認知症治療薬 BPSD治療薬			講義 演習	
10	認知症の予防			予防の考え方 認知症のリスクを下げる要因			講義 演習	
11	認知症を取り巻く状況			認知症の人の現在とこれから ケアなきケアの時代からの脱却 これからの認知症を取り巻く状況			講義 演習	
12	認知症のケアの理念と視点			理念とは 倫理について 認知症ケアの現状 認知症ケアの視点 認知症ケアにおける関わり			講義 演習	
13	認知症当事者の視点から見えるもの			認知症の人の思い 認知症による体験が生活に及ぼす影響 認知症の人の思いを尊重したサポート方法			講義 演習	
14	まとめ			振り返り 国家試験問題			講義 演習	
15	期末試験			筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			10	
課題レポート		○	○	10	
授業態度		○	○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	下野 典子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	こころとからだのしくみA			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	生活支援のために必要な人間の身体について、その解剖や生理的機能、身体の動きのメカニズムを理解し、合わせて介護福祉士が生活支援の立場で知るべき医療関連知識などを講義する。						
一般目標	1. 脳や心臓など人間の身体の解剖や生理的機能を理解する。 2. 骨・関節・骨格筋による身体の動きのメカニズムを理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂)「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 脳や心臓など人間の身体の解剖や生理的機能を説明できる。 骨・関節・骨格筋による身体の動きのメカニズムを説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	細胞・遺伝、身体各部の名称、脳・神経			人体の細胞の構造および遺伝、脳・神経の構造と機能		講義	
2	感覚器 ①視覚器 ②平衡聴覚器			眼の構造と機能、耳の構造と機能		講義	
3	感覚器 ③嗅覚器 ④味覚器 ⑤皮膚			鼻の構造と機能、味を感じる味蕾、皮膚の構造と機能		講義	
4	細胞・遺伝から感覚器までの 要点確認			要点の整理		確認試験 講義	
5	呼吸器			呼吸器の構造と機能		講義	
6	循環器			心臓の構造と機能、血管系、血液・体液・リンパ		講義	
7	消化器 ①消化管			消化管の構造と機能		講義	
8	消化器 ②肝臓・胆嚢・膵臓			消化腺(唾液腺・肝臓・胆嚢・膵臓)の構造と機能		講義	
9	泌尿器、生殖器			腎臓の構造と機能、生殖器の構造と機能		講義	
10	骨・筋肉			人体の骨格と、骨の機能、筋肉の機能		講義	
11	骨・関節の動き、筋肉の動き、 神経系のはたらき			関節の運動と主動作筋、平衡能・敏捷性		講義 演習	
12	内分泌			内分泌系の構造と機能		講義	
13	心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみ			ホメオスタシス、自律神経系、バイタルサイン		講義	
14	加齢による機能低下、骨・関節の動き			高齢者に多い疾患や症状の特徴、からだの動きと転倒		講義 演習	
15	要点のまとめ、期末試験			国家試験対策を含めての要点整理、筆記試験		講義 試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			20	
授業態度					
演習(GW、技術等)					
担当教員	南田 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	こころとからだのしくみB			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護技術の根拠となる人体の構造や機能と介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる講義とする。						
一般目標	1. 生活支援のために必要な基本的人体の構造や機能について根拠を持って理解する。 2. 生活支援の妥当性について根拠を持って説明できるようになる。 3. 多職種との連携に必要な専門用語について理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)「7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 基本的人体の構造や機能について説明できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	移動のしくみ		なぜ移動をするのか・姿勢の種類・麻痺の種類・良肢位・ポジショニングについて			講義 演習	
2	移動のしくみ		ボディメカニクス			講義 演習	
3	移動に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		移動に繋がる支援・臥位から立位になるまで・歩行、移動するためのしくみ			講義	
4	心身機能低下が移動に及ぼす影響		精神機能の低下が移動に及ぼす影響 身体機能の低下が移動に及ぼす影響(廃用症候群・褥瘡)			講義	
5	変化と気づきの対応		移動の観察ポイント 移動の医療職との連携のポイント			講義	
6	身じたくのしくみ		なぜ身じたくを整えるのか			講義	
7	身じたくに関連したからだのしくみ		顔面・眼耳・鼻の構造と機能			講義 演習	
8	身じたくに関連したからだ・こころのしくみ		爪・毛髪・口腔・歯・舌の構造と機能・清潔について			講義	
9	心身機能低下が身じたくに及ぼす影響		精神機能・身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響			講義	
10	変化と気づきの対応		変化に対する観察ポイント			講義	
11	入浴・清潔保持のしくみ		なぜ入浴・清潔保持を行なうのか・入浴の作用と効果			講義	
12	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		皮膚のしくみと清潔・陰部のしくみと清潔			講義	
13	心身の機能低下が及ぼす影響		皮膚機能の変化・感覚機能、運動機能の低下と影響			講義	
14	変化と気づきの対応		変化に対する観察ポイント			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	松澤 可奈子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	手話			単位数	1	時間数	20
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	聴覚障害について理解し、コミュニケーション手段である手話指文字を学び、ろう者と簡単な日常会話ができるように講義する。						
一般目標	1. 聴覚障害およびコミュニケーション方法を知る。 2. 聴覚障害者の大切なコミュニケーション手段である手話の単語や指文字等の実技を繰り返し練習することにより習得する。 3. 聴覚障害者との交流によって、生きた手話を学ぶ。						
テキスト	最新版　すぐ使える手話　（主婦と生活社）						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 聴覚障害について理解し聞こえの程度、聞こえ方によりコミュニケーション方法が違うことを説明できる。							
技術(精神運動領域) コミュニケーション手段である指文字手話を学び、学んだ手話を使って簡単な会話をろう者とすることができる。							
態度(情意領域) 学んだ手話指文字を主体的に使う、またろう者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。							
回数	項　目			内　容		授業 学習方法	備考
1	オリエンテーション・指文字			聴覚障害及び聴覚障害者のコミュニケーション方法 指文字		講義	
2	あいさつ・名前に関する手話			挨拶に関する手話 名前に関する手話及び指文字を使って自分の名前を表現する		講義	
3	数字・生年月日に関する手話			数字に関する手話を使って自分の生年月日を手話で表現する		講義	
4	家族・人称に関する手話			人称・家族に関する手話を使って自分の家族を紹介する		講義	
5	地名・場所に関する手話			地名・場所に関する手話を使って学校や自分の住所を表現する		講義	
6	仕事に関する手話			仕事に関する手話を使って自分や家族の仕事を表現する		講義	
7	趣味に関する手話			趣味、得意なことに関する手話を使って自分の趣味や特技を表現する		講義	
8	自己紹介のまとめ			疑問詞「何」「何人」「どこ」「いくつ」を使って自己紹介の会話をする		講義	
9	簡単な会話			今まで習った手話を使って簡単な会話をする		講義	
10	聴覚障害者との交流会			地元の聴覚障害者と今まで習った手話を使って交流する		GW	
11	期末試験			筆記・実技試験		試験	
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				なし	
課題レポート				なし	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)				なし	
担当教員	山内 陽子		実務経験紹介	無	

科目名	ビジネスマナー			単位数		時間数	14
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	職業人としての基本マナーを身に付けコミュニケーション力を養う。						
一般目標	1. 円滑なコミュニケーションを進めるために第一印象の重要性について学ぶ。 2. 正しい敬語の使い方と介護の現場にふさわしい話し方を理解する。 3. 社会人として必要なビジネスマナーを理解する。						
テキスト	無						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 必要性を理解でき、生活一般に活用できる。							
技術(精神運動領域) 学んだことを実践することが出来る。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(グループワークでの積極的な討議や意見交換・資料等の事前準備、ファイルでの整理整頓等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	コミュニケーション術(第一印象の重要性)		身だしなみを整える・感じの良い笑顔・挨拶の仕方・視線・人の話をしっかり聞く。			講義	
2	社会人としての自覚と心構え		報・連・相の重要性を知る。一般常識マナーを知る。交際のマナーとしきたりを知る。			講義	
3	言葉遣い		正しい敬語の使い方と感じの良い話し方を学ぶ。			講義 GW	
4	話し方の基本知識		介護現場におけるホスピタルな話し方を学ぶ			講義	
5	電話応対と接遇		介護現場にふさわしい電話応対の仕方と言葉遣いを学ぶ。電話での様々なシーンの対応の仕方を学ぶ。			講義 GW	テルコーチ
6	電話応対の実際		テルコーチを使つてのロールプレイング。自分の声の確認をする。			ロープレ	
7	ビジネス文章の作成		社内、社外文書、封筒の書き方、慣用語、往復ハガキ、委任状の書き方を学ぶ。			講義 プレゼン	
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)			○	10	
担当教員	山本 詳子		実務経験紹介	無	

科目名	人間の理解A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎を習得できるよう講義する。						
一般目標	1. 人間の尊厳と人権・福祉理念を理解できる。 2. 自立の考え方を理解できる。 3. 多様な対人援助関係の場面におけるコミュニケーションの基礎が理解できる。						
テキスト	「1 人間の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人権の歴史的展開、福祉理念の変遷について説明できる。							
技術(精神運動領域) グループワーク(演習)学習で、多様な場面でのコミュニケーション技法を実施できる。							
態度(情意領域) 自分の行動をふりかえることができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	導入			授業概要、一般目標及び授業の進行に関する説明		講義 演習	
2	第1章 人間の尊厳と自立			第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念		講義 演習	
3	第1章 人間の尊厳と自立			第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念		講義 演習	
4	第1章 人間の尊厳と自立			第2節 自立のあり方		講義 演習	
5	第1章 人間の尊厳と自立			第2節 自立のあり方		講義 演習	
6	第2章 人間関係とコミュニケーション			第1節 人間と人間関係		講義 演習	
7	第2章 人間関係とコミュニケーション			第1節 人間と人間関係		講義 演習	
8	第2章 人間関係とコミュニケーション			第1節 人間と人間関係		講義 演習	
9	第2章 人間関係とコミュニケーション			第2節 対人関係におけるコミュニケーション		講義 演習	
10	第2章 人間関係とコミュニケーション			第2節 対人関係におけるコミュニケーション		講義 演習	
11	第2章 人間関係とコミュニケーション			第3節 対人援助関係とコミュニケーション		講義 演習	
12	第2章 人間関係とコミュニケーション			第3節 対人援助関係とコミュニケーション		講義 演習	
13	第2章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織におけるコミュニケーション		講義 演習	
14	第2章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織におけるコミュニケーション		講義 演習	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			10	
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員	高木 秀是	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	-------	--------	---	---

科目名	レクリエーション			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について理解し、実践を通し、レクリエーション支援の役割と必要性を考える講義とする。						
一般目標	1. 福祉分野で実際にレクリエーション支援を実施できるようになるための知識・技術を修得する。 2. レクリエーション支援の実際の体験するとともに、チーム支援において重要な、合意形成能力を高める。 3. 介護福祉士としてレクリエーション活動の必要性を理解し、支援者として自己課題を見出す。						
テキスト	参考文献:「レクリエーション介護士2級 公式テキスト<第3版>」(株式会社スマイル+・カンパニー) 「福祉レクリエーション総論」(中央法規)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)
介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について理解できる。

技術(精神運動領域)
レクリエーション支援の実際と役割、活動の実際を理解し、実践できる。

態度(情意領域)
主体的に参加することができる(GW・企画書作成・レクリエーション実施)。

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
1	レクリエーションとは	レクリエーションの意義、海外、日本のレクリエーションの歩み	講義	
2	福祉レクリエーションの重要性	福祉レクリエーションとはなにか。福祉レクリエーションの重要性について	講義	
3	ホスピタリティ・アイスブレイクについて	レクリエーション支援に必要なホスピタリティとホスピタリティレーニング演習。アイスブレイクの効果	講義 演習	
4	アイスブレイクの実際	様々なアイスブレイクの効果と実演	講義 演習	
5	レクリエーション支援者として	支援者としての思考・態度・心構えについて	講義 演習	
6	レクリエーション援助プロセスA-PIEについて	意義・目的とA-PIE構成要素の具体的な内容について	講義	
7	レクリエーション援助プロセスアセスメント準備	レクリエーション実施施設の概要を調べる。情報収集の確認	講義 演習	
8	情報収集	計画立案にあたり施設訪問し情報収集を行う	実習	
9	情報収集・アセスメント	計画立案にあたり施設訪問し情報収集を行う アセスメントを行う	実習 GW	
10	企画書作成	アセスメントをもとに計画書を作成	GW	
11	実施準備	レクリエーション実施に向け必要物品の準備	GW	
12	実施	施設で高齢者を対象に学生主体のレクリエーションを行う	実習	
13	実施	施設で高齢者を対象に学生主体のレクリエーションを行う 施設職員講評	実習	
14	実習の振り返り・評価	各担当教員と計画・実施について振り返る レクリエーション評価についての説明	講義 GW	
15	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			20	
授業態度					
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員	松澤 可奈子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	--------	--------	---	---

科目名	国語表現			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護で使われる言葉に焦点を当て、専門用語を意味、使用方法とともに紹介する。 国家試験問題の理解、正しい解答が導き出せるよう、語彙の確認と文章理解の講義・演習を行う。 実際に書く時間を設け、添削指導を行う。						
一般目標	1. コミュニケーションの重要性を理解し、会話と専門用語の違いを知って、言葉を使うことができる。 2. 介護に関する基本的な言葉(専門用語)を理解する。 3. 場面に応じた声掛けについて知り、臨機応変に声掛けができるようになる。 4. 実習日誌の重要性を理解し、項目に合った内容を書くことができるようになる。						
テキスト	レジュメ・プリントで対応						

到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護に関する専門用語、よく使用される語彙とその意味を理解し、適切に使用、説明することができる。 記録の意義を理解し、説明できる。 専門用語を覚え、他の同じ意味の言葉など様々な表現を知り、使用することができる。 話を聞いて理解し、話の内容を説明することができる。							
技術(精神運動領域) 場面に応じた声かけができる。 口に出して言える。 話し言葉と書き言葉の相違を理解し、記録を書くことができる。 専門用語を活用し、記録として書くことができる。							
態度(情意領域) 演習に主体的・積極的に参加することができる。 積極的にレジュメ・プリントを読む。							

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
1	言葉の重要性・介護の言葉の理解	日本語テスト 介護の日本語・介護福祉士国家試験問題の練習	試験 講義	
2	話し言葉・書き言葉、敬語表現	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 話し言葉と書き言葉の相違点、敬語の種類と使い方	講義	
3	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家権問題練習 起床・食事の際の声かけ、俳句	講義 演習	
4	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 排泄・入浴の際の声かけ、和歌(短歌)	講義 演習	
5	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 就寝の際の声かけ、総復習、語源	講義 演習	
6	場面別声かけ	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 丁寧な声かけ、よくない声かけ、流行語	講義 演習	
7	記録の理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 記録の意義、留意点、原稿用紙の使い方	講義	
8	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録の書き方、よく使う言葉とその意味の確認、慣用句	講義	
9	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録を読む、書かれてあることの読み取り、文の組み立て	演習	
10	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録を読む、書かれてあることの読み取り、発想	演習	
11	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 記録によく使われる表現について、主観と客観	講義	
12	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題 話したことを書いてみる、四字熟語	講義 演習	
13	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題 会話を記録にする、所感のまとめ方	講義 演習	
14	記録の書き方理解	介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 お礼状の書き方	講義 演習	
15	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)					
担当教員	久賀 菜穂子	実務経験紹介	無		

科目名	介護の基本Ⅰ－1			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活に継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
一般目標	1. 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。 2. 介護を必要とする人を生活する人として受けとめ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、その人らしさ(個別性)を大切にすることなどを学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを理解し説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方などを理解し実践する。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	生活を理解する上で大切な視点		生活とは何か 介護とは何か			講義 GW	
2	介護福祉を必要とする人の理解		私たちの生活の理解 介護福祉を必要とする人たちの暮らし			講義	
3	介護福祉を必要とする人の理解		その人らしさと生活ニーズの理解 生活のしづらさの理解とその支援			講義	
4	さまざまな生活の違いがあることの理解 □		周囲の人にインタビューし、その結果について、共通点や相違点など、気づいたことをグループでまとめる。			講義 GW	
5	対人関係形成技術		共感的理解と基本的態度の習得(自己覚知) レポート提出			講義 DVD	
6	介護福祉士の役割と機能		介護福祉士の活動の場と役割 社会福祉士及び介護福祉士法			講義	
7	介護福祉士の役割と機能		介護福祉士養成カリキュラムの変遷 介護福祉士を支える団体(倫理綱領)			講義	
8	高齢者や障害のある人の理解		重度の身体障害のある人が一人旅に出ようとした場合、どのような準備や手配、確認があるかを当事者の立場になって考えることで、社会参加の難しさと大切さを理解する。			GW 発表	
9							
10	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 防府市立図書館に行き関連文献を検索する。			講義 GW	
11	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
12	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
13	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
14	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	
15	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。			GW□	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。	GW	
17	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (発表)	GW 発表	
18	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (発表)	GW 発表	
19	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (発表)	GW 発表	
20	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者が生きてきた時代や文化を理解する。 (まとめ)	講義 GW	
21	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義 GW	
22	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義	
23	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義	
24	介護福祉士の倫理	身体拘束について	講義	
25	介護福祉士の倫理	クローズアップ現代「認知症ケア/ユマニチュード」	講義 DVD	
26	生活障害の理解と生活ニーズ	奇跡の人～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語」視聴	講義 DVD	
27	生活障害の理解と生活ニーズ	奇跡の人～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語」視聴	講義 DVD	
28	事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理	介護福祉士の専門性について	講義 GW	
29	総まとめ	試験について説明 全体の振り返り	講義	
30	期末試験	筆記試験 振り返り	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト						
課題レポート		○	○		5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術)				○	10	
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	コミュニケーション技術A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護におけるコミュニケーションの意義や目的、基本視点、技法を講義する。						
一般目標	1. 介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術が理解できる。 2. コミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法が理解できる。 3. 事例を用いた演習を通し、コミュニケーション技法を習得する。						
テキスト	「5 コミュニケーション技術」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護におけるコミュニケーションの意義や技法が説明できる。							
技術(精神運動領域) 介護場面において、利用者や家族と円滑にコミュニケーションを図るための技法を修得する。 チーム力を高めるコミュニケーションの方法を修得する。							
態度(情意領域) 授業に主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換等)。 授業の事前準備ができる(テキスト等の準備、ファイルでの整理整頓等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護におけるコミュニケーションの基本①			介護におけるコミュニケーションとは		講義 GW	
2	介護におけるコミュニケーションの基本②			介護におけるコミュニケーションの対象		講義 GW	
3	介護におけるコミュニケーションの基本③			援助関係とコミュニケーション		講義 GW	
4	コミュニケーションの基本技術①			コミュニケーション態度に関する基本技術①		講義 GW	
5	コミュニケーションの基本技術②			コミュニケーション態度に関する基本技術②		講義 GW	
6	コミュニケーションの基本技術③			言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本		講義 GW	
7	コミュニケーションの基本技術④			目的別のコミュニケーション技術		講義 GW	
8	コミュニケーションの基本技術⑤			集団におけるコミュニケーション技術		講義 GW	
9	対象者の特性に応じたコミュニケーション①			コミュニケーション障害への対応の基本		講義 GW	
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション②			視覚障害、聴覚障害のある人への支援		講義 GW	
11	対象者の特性に応じたコミュニケーション③			構音障害のある人、失語症の人への支援		講義 GW	
12	対象者の特性に応じたコミュニケーション④			認知症の人への支援		講義 GW	
13	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤			うつ病、抑うつ状態、統合失調症の人、知的障害のある人への支援		講義 GW	
14	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥			発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害のある人への支援		個人 ワーク	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)			○	5	
担当教員	佐藤 正昭		実務経験紹介	無	

科目名	生活支援技術Ⅰ－1			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護利用者がその人らしい生活を継続し、自立を支援できる方法を理解し提供できる力を養う。						
一般目標	1. 生活支援とは何か、基本的な考え方が理解できる。 2. 居住環境整備、家事支援における介護技術が理解できる。 3. その人らしい生活支援の方法が理解できる。						
テキスト	「6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 生活支援のポイントや自立した家事支援について説明できる。 安全な居住空間について説明できる。 適切な福祉用具を選べる。							
技術(精神運動領域) 介護計画を理解し計画に沿った家事支援ができる。							
態度(情意領域) 主体的にGWに参加できる							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	生活とは何か		生活を理解する			講義	
2	生活とは何か		生活支援の基本的な考え方			講義	
3	生活支援と福祉用具の活用		福祉用具とは			講義	
4	生活支援と福祉用具の活用		生活で福祉用具を活用する視点			講義	
5	居住環境の整備		居住環境の意義と目的			講義	
6	居住環境の整備		安心で快適な生活の場づくり			講義	
7	居住環境の整備		在宅生活を続けるための環境整備			GW	
8	家庭生活にかかる基礎知識		家庭生活の理解			講義	
9	家庭生活にかかる基礎知識		家庭生活の営み			講義	
10	家事の介護		家事支援の意義と目的			講義	
11	家事の介護		家事支援における介護技術			講義 GW	
12	家事の介護		家事支援における介護技術			講義 GW	
13	家事の介護		家事支援における介護技術			講義 GW	
14	緊急時の対応・まとめ		緊急時の対応・まとめ			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)					

担当教員	伊東 典子	実務経験紹介	無	
------	-------	--------	---	--

科目名	生活支援技術Ⅱ－1			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を養う。						
一般目標	1. 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援の基礎的な知識・技術を修得する。 2. 実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)「高齢者ケアガイドライン改正版」(一般社団法人 山口県介護福祉士会)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者の安全に配慮した支援方法を説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の自立を踏まえ、生活行為ごとの基本的な介護の原理を活用して技術展開できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	生活支援技術とは		実習室の使用について 介護の原則			講義	
2	自立に向けた移動の介護 ①歩行の介助		平地歩行・見守り歩行 立ち上がり・座位姿勢の原則			講義	
3	自立に向けた移動の介護 ②歩行の介助		杖歩行 2動作歩行と3動作歩行・障害物越えの介助			演習	
4	自立に向けた移動の介護 ③歩行の介助		階段の上り下りの介助 歩行のための福祉用具			演習	
5	自立に向けた移動の介護 ①車いす介助		車いすの基本的な使い方 車いすでの移動の介助(平地走行・エレベーター)			演習	
6	自立に向けた移動の介護 ②車いす介助		段差越え・スロープ(上り・下り) 屋外での走行			演習	
7	自立に向けた身じたくの介護 ②整容・衣服の着脱		整髪の介助 バイタルサインのチェック			演習	
8	自立に向けた身じたくの介護 ②衣服の着脱		座位姿勢での着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン) 片麻痺を想定した着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン)			演習	
9	自立に向けた食事の介護		食事のための環境づくり 食卓で行う食事の介助			演習	
10	自立に向けた食事の介護		とろみ材を使用した食事・見守り介助・一部介助			演習	
11	休息・睡眠の介護 ①ベッドメイキング		方法と留意点 2人で行うベッドメイキング			演習	
12	休息・睡眠の介護 ②ベッドメイキング		2人で行うベッドメイキング			演習	
13	確認テスト		ベッドメイキング技術チェック			演習	
14	確認テスト		ベッドメイキング技術チェック			演習	
15	自立に向けた移動・移乗の介護		起居動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり動作)			演習	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	自立に向けた移動・移乗の介護	体位変換の介助(仰臥位から側臥位)	演習	
17	自立に向けた移動・移乗の介護	水平移動・平衡移動	演習	
18	自立に向けた移動・移乗の介護	ベッドから車いすへの移乗介助 片麻痺のある利用者の介助	演習	
19	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすからベッドへの移乗介助 片麻痺のある利用者の介助	演習	
20	確認テスト	ベッドから車いす移乗の技術チェック	演習	
21	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	入浴準備 個浴での介助方法	演習	
22	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	特殊浴槽(機会浴)を使用しての入浴介助	演習	
23	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	洗髪準備・洗髪介助 浴室以外での洗髪方法	演習	
24	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	洗髪準備・洗髪介助 浴室以外での洗髪方法	演習	
25	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	清拭準備 手浴・足浴	演習	
26	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	全身清拭	演習	
27	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	清拭準備 陰部清拭	演習	
28	自立に向けた入浴・清拭保持の介護	清拭準備 陰部清拭	演習	
29	振り返り	介護技術の振り返り	演習	
30	期末試験	筆記試験・振り返り	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト						
課題レポート		○			5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術等)			○		40	
担当教員	松澤可奈子 山本芳徳		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	介護総合演習A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。						
一般目標	1. 実習に向かうために必要な知識や技術を修得する。 2. 協働する専門職専門性について理解する。 3. 利用者のさまざまな暮らしを理解する。 4. 実習の振り返りを通じ、利用者理解や、専門職としてのあり方を深める。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規)「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者の様々な暮らしと実習の振り返りを通じ、専門職としてのあり方について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうために必要な知識や技術を修得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護総合演習とは			授業内容の説明、実習の目的・内容・期間等 介護福祉士の仕事(DVD)視聴		講義	
2	介護実習Ⅰ－1について			実習要項・実習の心得 緊急連絡先の確認		講義	
3	施設理解			通所介護、通所リハビリテーション グループホームについて調べる		講義	
4	実習準備			1, 2年生実習交流会 2年生から実習体験談などを聞く交流会		講義 演習	
5	実習準備			実習誓約書・個人票作成 記録物の配布・実習記録の記入方法の説明		講義	
6	グループミーティング			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義	
7	結団式(通所)			実習に向けての結団式・伝達事項の確認			
8	実習の振り返り			礼状・申し送り票の作成 自己評価・技術チェック表の記入		講義	
9	施設を理解する			介護福祉士の仕事(DVD)視聴		講義	
10	実習準備			実習誓約書・個人票の作成 実習記録の振り返り		講義 演習	
11	グループミーティング			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義	
12	実習準備			介護技術の復習		演習	
13	結団式(GH)			実習に向けての結団式・伝達事項の確認			
14	実習の振り返り(後指導)			礼状・申し送り票の作成 自己評価・技術チェック表の記入		講義	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)	○			5	

担当教員	山本 芳徳	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	-------	--------	---	---

科目名	発達と老化の理解A			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を修得できるよう講義する。						
一般目標	1. 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する。 2. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について理解する。						
テキスト	「12 発達と老化の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人間の発達段階と発達課題について説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識			成長・発達の考え方 成長・発達の原則・法則		講義	
2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識			成長・発達に影響する要因		講義 演習	
3	第2章 人間の発達段階と発達課題			発達理論 発達段階と発達課題		講義	
4	第2章 人間の発達段階と発達課題					講義	
5	第2章 人間の発達段階と発達課題			身体的機能の成長と発達		講義	
6	第2章 人間の発達段階と発達課題			心理的機能の発達		講義	
7	第2章 人間の発達段階と発達課題			社会的機能の発達		講義 演習	
8	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期の定義		講義	
9	第3章 老年期の特徴と発達課題			老化とは		講義	
10	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期の発達課題		講義	
11	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期をめぐる今日的課題		講義 演習	
12	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう身体的な変化と生活への影響		講義	
13	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう社会的な変化と生活への影響		講義	
14	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう心理的な変化と生活への影響		講義 演習	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト						
課題レポート						
授業態度						
演習(GW、技術等)		○		○	20	
担当教員	田中 恵美子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	認知症の理解A				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象		有		
授業概要	医学的側面からみた認知症の基礎を説明し、認知症の人への関心や興味が高まるように授業を進める。認知症の人とかかわる際に、介護福祉士として専門性を発揮できるよう知識の定着に努める。							
一般目標	1 認知症の原因疾患、中核症状、BPSD、治療、予防について理解する。 2. 認知症の人の困難さを理解し、認知症ケアの視点を理解する。							
テキスト	「13 認知症の理解」(中央法規)							
到達目標(行動目標)								
知識(認知領域) 認知症の疾患、症状、治療、予防について説明する。								
技術(精神運動領域) 認知症の人のケアを模倣する。								
態度(情意領域) 認知症の人の困難さを感じ、認知症の人へ配慮する。								
回数	項 目			内 容			授業 学習方法	備考
1	認知症とは何か			認知症の定義と診断基準 生活障害 症状の全体像 特徴			講義 演習	
2	脳の仕組み			脳の構造・機能 病理 うつ 老化と認知症の関係			講義 演習	
3	認知症の人の理解			不安・喪失感 不安・うつと病識低下 不安・うつの病態			講義 演習	
4	中核症状の理解			中核症状 記憶障害 見当識障害 遂行機能障害 空間認知障害 社会脳 失語・失行・失認 病識低下 神経症状			講義 演習	
5	生活障害の理解			生活障害 IADL障害 ADL障害 家庭内での家族との関係 社会参加			講義 演習	
6	BPSDの理解			BPSDの定義 BPSDの要因 BPSDの誘因 主要なBPSD			講義 演習	
7	認知症の診断と重症度			診断 認知症の重症度判定			講義 演習	
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害			アルツハイマー型認知症 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 治療可能な認知症 若年性認知症 認知症の原因疾患の鑑別			講義 演習	
9	認知症の治療薬			神経伝達物質の基礎的理解 アルツハイマー型認知症治療薬 BPSD治療薬			講義 演習	
10	認知症の予防			予防の考え方 認知症のリスクを下げる要因			講義 演習	
11	認知症を取り巻く状況			認知症の人の現在とこれから ケアなきケアの時代からの脱却 これからの認知症を取り巻く状況			講義 演習	
12	認知症のケアの理念と視点			理念とは 倫理について 認知症ケアの現状 認知症ケアの視点 認知症ケアにおける関わり			講義 演習	
13	認知症当事者の視点から見えるもの			認知症の人の思い 認知症による体験が生活に及ぼす影響 認知症の人の思いを尊重したサポート方法			講義 演習	
14	まとめ			振り返り 国家試験問題			講義 演習	
15	期末試験			筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			10	
課題レポート		○	○	10	
授業態度		○	○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	下野 典子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	こころとからだのしくみA			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	生活支援のために必要な人間の身体について、その解剖や生理的機能、身体の動きのメカニズムを理解し、合わせて介護福祉士が生活支援の立場で知るべき医療関連知識などを講義する。						
一般目標	1. 脳や心臓など人間の身体の解剖や生理的機能を理解する。 2. 骨・関節・骨格筋による身体の動きのメカニズムを理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂)「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 脳や心臓など人間の身体の解剖や生理的機能を説明できる。 骨・関節・骨格筋による身体の動きのメカニズムを説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	細胞・遺伝、身体各部の名称、脳・神経			人体の細胞の構造および遺伝、脳・神経の構造と機能		講義	
2	感覚器 ①視覚器 ②平衡聴覚器			眼の構造と機能、耳の構造と機能		講義	
3	感覚器 ③嗅覚器 ④味覚器 ⑤皮膚			鼻の構造と機能、味を感じる味蕾、皮膚の構造と機能		講義	
4	細胞・遺伝から感覚器までの 要点確認			要点の整理		確認試験 講義	
5	呼吸器			呼吸器の構造と機能		講義	
6	循環器			心臓の構造と機能、血管系、血液・体液・リンパ		講義	
7	消化器 ①消化管			消化管の構造と機能		講義	
8	消化器 ②肝臓・胆嚢・膵臓			消化腺(唾液腺・肝臓・胆嚢・膵臓)の構造と機能		講義	
9	泌尿器、生殖器			腎臓の構造と機能、生殖器の構造と機能		講義	
10	骨・筋肉			人体の骨格と、骨の機能、筋肉の機能		講義	
11	骨・関節の動き、筋肉の動き、 神経系のはたらき			関節の運動と主動作筋、平衡能・敏捷性		講義 演習	
12	内分泌			内分泌系の構造と機能		講義	
13	心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみ			ホメオスタシス、自律神経系、バイタルサイン		講義	
14	加齢による機能低下、骨・関節の動き			高齢者に多い疾患や症状の特徴、からだの動きと転倒		講義 演習	
15	要点のまとめ、期末試験			国家試験対策を含めての要点整理、筆記試験		講義 試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			20	
授業態度					
演習(GW、技術等)					
担当教員	南田 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	こころとからだのしくみB			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護技術の根拠となる人体の構造や機能と介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる講義とする。						
一般目標	1. 生活支援のために必要な基本的人体の構造や機能について根拠を持って理解する。 2. 生活支援の妥当性について根拠を持って説明できるようになる。 3. 多職種との連携に必要な専門用語について理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)「7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 基本的人体の構造や機能について説明できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	移動のしくみ		なぜ移動をするのか・姿勢の種類・麻痺の種類・良肢位・ポジショニングについて			講義 演習	
2	移動のしくみ		ボディメカニクス			講義 演習	
3	移動に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		移動に繋がる支援・臥位から立位になるまで・歩行、移動するためのしくみ			講義	
4	心身機能低下が移動に及ぼす影響		精神機能の低下が移動に及ぼす影響 身体機能の低下が移動に及ぼす影響(廃用症候群・褥瘡)			講義	
5	変化と気づきの対応		移動の観察ポイント 移動の医療職との連携のポイント			講義	
6	身じたくのしくみ		なぜ身じたくを整えるのか			講義	
7	身じたくに関連したからだのしくみ		顔面・眼耳・鼻の構造と機能			講義 演習	
8	身じたくに関連したからだ・こころのしくみ		爪・毛髪・口腔・歯・舌の構造と機能・清潔について			講義	
9	心身機能低下が身じたくに及ぼす影響		精神機能・身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響			講義	
10	変化と気づきの対応		変化に対する観察ポイント			講義	
11	入浴・清潔保持のしくみ		なぜ入浴・清潔保持を行なうのか・入浴の作用と効果			講義	
12	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		皮膚のしくみと清潔・陰部のしくみと清潔			講義	
13	心身の機能低下が及ぼす影響		皮膚機能の変化・感覚機能、運動機能の低下と影響			講義	
14	変化と気づきの対応		変化に対する観察ポイント			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	松澤 可奈子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	手話			単位数	1	時間数	20
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	聴覚障害について理解し、コミュニケーション手段である手話指文字を学び、ろう者と簡単な日常会話ができるように講義する。						
一般目標	1. 聴覚障害およびコミュニケーション方法を知る。 2. 聴覚障害者の大切なコミュニケーション手段である手話の単語や指文字等の実技を繰り返し練習することにより習得する。 3. 聴覚障害者との交流によって、生きた手話を学ぶ。						
テキスト	最新版　すぐ使える手話　（主婦と生活社）						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 聴覚障害について理解し聞こえの程度、聞こえ方によりコミュニケーション方法が違うことを説明できる。							
技術(精神運動領域) コミュニケーション手段である指文字手話を学び、学んだ手話を使って簡単な会話をろう者とすることができる。							
態度(情意領域) 学んだ手話指文字を主体的に使う、またろう者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。							
回数	項　目			内　容		授業 学習方法	備考
1	オリエンテーション・指文字			聴覚障害及び聴覚障害者のコミュニケーション方法 指文字		講義	
2	あいさつ・名前に関する手話			挨拶に関する手話 名前に関する手話及び指文字を使って自分の名前を表現する		講義	
3	数字・生年月日に関する手話			数字に関する手話を使って自分の生年月日を手話で表現する		講義	
4	家族・人称に関する手話			人称・家族に関する手話を使って自分の家族を紹介する		講義	
5	地名・場所に関する手話			地名・場所に関する手話を使って学校や自分の住所を表現する		講義	
6	仕事に関する手話			仕事に関する手話を使って自分や家族の仕事を表現する		講義	
7	趣味に関する手話			趣味、得意なことに関する手話を使って自分の趣味や特技を表現する		講義	
8	自己紹介のまとめ			疑問詞「何」「何人」「どこ」「いくつ」を使って自己紹介の会話をする		講義	
9	簡単な会話			今まで習った手話を使って簡単な会話をする		講義	
10	聴覚障害者との交流会			地元の聴覚障害者と今まで習った手話を使って交流する		GW	
11	期末試験			筆記・実技試験		試験	
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				なし	
課題レポート				なし	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)				なし	
担当教員	山内 陽子		実務経験紹介	無	

科目名	ビジネスマナー			単位数		時間数	14
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	職業人としての基本マナーを身に付けコミュニケーション力を養う。						
一般目標	1. 円滑なコミュニケーションを進めるために第一印象の重要性について学ぶ。 2. 正しい敬語の使い方と介護の現場にふさわしい話し方を理解する。 3. 社会人として必要なビジネスマナーを理解する。						
テキスト	無						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 必要性を理解でき、生活一般に活用できる。							
技術(精神運動領域) 学んだことを実践することが出来る。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(グループワークでの積極的な討議や意見交換・資料等の事前準備、ファイルでの整理整頓等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	コミュニケーション術(第一印象の重要性)		身だしなみを整える・感じの良い笑顔・挨拶の仕方・視線・人の話をしっかり聞く。			講義	
2	社会人としての自覚と心構え		報・連・相の重要性を知る。一般常識マナーを知る。交際のマナーとしきたりを知る。			講義	
3	言葉遣い		正しい敬語の使い方と感じの良い話し方を学ぶ。			講義 GW	
4	話し方の基本知識		介護現場におけるホスピタルな話し方を学ぶ			講義	
5	電話応対と接遇		介護現場にふさわしい電話応対の仕方と言葉遣いを学ぶ。電話での様々なシーンの対応の仕方を学ぶ。			講義 GW	テルコーチ
6	電話応対の実際		テルコーチを使つてのロールプレイング。自分の声の確認をする。			ロープレ	
7	ビジネス文章の作成		社内、社外文書、封筒の書き方、慣用語、往復ハガキ、委任状の書き方を学ぶ。			講義 プレゼン	
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)			○	10	
担当教員	山本 詳子		実務経験紹介	無	

科目名	人間の理解B			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	「人間の理解A」で習得した介護福祉士の倫理基盤、コミュニケーションの基盤に基づき、求められているチームで働く能力の基礎、チームマネジメントが習得できるよう講義する。						
一般目標	1. 介護福祉士にチームマネジメントが求められている背景を理解できる。 2. 協働のあり方やチームの力を最大限に発揮するための理解ができる。 3. 質の高い介護サービスを組織が支えていることの理解ができる。						
テキスト	「1 人間の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 組織の構造と機能や役割について、説明できる。							
技術(精神運動領域) OJT、Off-JTやスーパービジョンについて、実施できる。							
態度(情意領域) 学内の学生、教職員と協調できる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	導入		授業概要、一般目標及び授業の進行に関する説明			講義 演習	
2	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第1部 介護実践におけるチームマネジメントの意義			講義 演習	
3	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第1部 介護実践におけるチームマネジメントの意義			講義 演習	
4	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第1部 介護実践におけるチームマネジメントの意義			講義 演習	
5	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第1部 介護実践におけるチームマネジメントの意義			講義 演習	
6	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第2部 ケアを展開するためのチームマネジメント			講義 演習	
7	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第2部 ケアを展開するためのチームマネジメント			講義 演習	
8	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第2部 ケアを展開するためのチームマネジメント			講義 演習	
9	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第3部 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義 演習	
10	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第3部 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義 演習	
11	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第3部 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義 演習	
12	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント			講義 演習	
13	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント			講義 演習	
14	第3章 介護実践におけるチームマネジメント		第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント			講義 演習	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			10	
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	社会と制度の理解B			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	「社会の理解A」で修得した社会保障制度等を基盤とし、介護福祉士としてかかわることが多い介護保険制度及び障害者総合支援制度の内容が修得できるよう講義する。また、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方についても、併せて講義する。						
一般目標	1. 高齢者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を整理し、高齢者福祉の現状と課題を理解できる。 2. 障害者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を整理し、障害者福祉の現状と課題を理解できる。 3. 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護などの制度・施策の基本的な考え方を理解できる。						
テキスト	「2 社会の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護保険制度、障害者総合支援制度、個人情報に関する制度等について、要約できる。							
技術(精神運動領域) 知識(認知領域)で要約したことをグループワーク(演習)で学習できる。							
態度(情意領域) 自分の学習内容をふりかえり、学習意欲を継続できる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	導入		授業概要、一般目標及び授業の進行に関する説明			講義 演習	
2	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度		第1節 高齢者保健福祉の動向			講義 演習	
3	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度		第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系			講義 演習	
4	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度		第3節 介護保険制度			講義 演習	
5	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度		第3節 介護保険制度			講義 演習	
6	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度		第3節 介護保険制度			講義 演習	
7	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度		第1節 障害者保健福祉の動向			講義 演習	
8	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度		第2節 障害者保健福祉に関連する法体系			講義 演習	
9	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度		第3節 障害者総合支援制度			講義 演習	
10	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度		第3節 障害者総合支援制度			講義 演習	
11	第6章 介護実践に関連する諸制度		第1節 個人の権利を守る制度・施策			講義 演習	
12	第6章 介護実践に関連する諸制度		第2節 保健医療に関する制度・施策			講義 演習	
13	第6章 介護実践に関連する諸制度		第3節 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策			講義 演習	
14	第6章 介護実践に関連する諸制度		第4節 地域社会を支援する制度・施策			講義 演習	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			10	
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	アクティビティ・サービス			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	高齢者が人として最期の最期まで人らしくあるように、24時間すべてのサービスを考え、心身と生活を活性化することの援助が提供できるよう講義する。						
一般目標	1. 生活支援学とアクティビティ・サービスを理解する。 2. アクティビティ・サービスの誕生について理解する。 3. アクティビティ・サービスの計画、立案、実践を理解する。						
テキスト	参考文献:「アクティビティ・サービス」(中央法規) 「アクティビティ実践ガイド」(日総研)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) アクティビティ・サービスの理論と実践について説明できる。							
技術(精神運動領域) 具体的なアクティビティ・プログラムを提供できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等。)							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	1.生きるための条件□			1.衣、食、住以外にどのようなことが必要なのか□		講義	
2	アクティビティ・サービスのヒント (視点を変えるとこれもアクティビティ)			貼り合わせ(雑誌の切り抜きや写真を画用紙に貼り合わせ、作品として作る)		個人ワーク	
3	アクティビティ・サービスのヒント (視点を変えるとこれもアクティビティ)			カード作り(写真を台紙に貼り、カード風に仕上げ言葉等を添える)		個人ワーク 発表	
4	DVD鑑賞			NHK にんげんどキュメント「人生の願いききます」 レポート提出		DVD	
5	アクティビティの理解(高齢者の娯楽活動)			花札・百人一首		GW	
6	アクティビティの理解(高齢者の娯楽活動)			将棋		GW	
7	アクティビティの理解(高齢者の娯楽活動)			マージャン		GW	
8	1.アクティビティ・サービスとは何か 2.生活支援学としてのアクティビティ・サービス			1.アクティビティ・サービス効果・対象 2.生活支援学の成り立ち・人間科学としての生活支援学		講義	
9	3.日本におけるアクティビティ・サービスの誕生 4.アクティビティ・サービスの計画			3.『レクリエーション教育』の誕生・福祉レクリエーションから アクティビティ・サービスへ・諸外国のアクティビティ・サービス 4.アクティビティ・サービス計画の基本的考え方・プログラムの 計画上の留意点・具体的な立案方法		講義	
10	5.アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の 基本について 6.アクティビティ・サービスの実践			5.ICFの意義と内容・人権思想の変革におけるアクティビ ティサービス・ICFにおける活動・参加とアクティビティ・サー ビス・ICFとアクティビティ・サービスの方向性 6.日常生活場面でのアクティビティ・サービス・非日常生活 の場面でのアクティビティ・サービス・アクティビティ・サービス 介護過程		講義	
11	DVD鑑賞			「最強のふたり」□		DVD	
12	DVD鑑賞			□ポート提出		DVD	
13	事例演習			Q1 佐野さんの生活についてどのように理解したか Q2 アクティビティ・サービスと思われるところはどこか		GW	
14	事例演習			Q3 佐野さんのいきいきした場面やところが動かされている 場面について、その理由 Q4 演習を通して、あなたの学びになったことはどのようなこ とか		GW	
15	事例演習			・アクティビティ・サービスを考えて、模造紙1枚を使い、佐野 さんを表現する(グループ発表)		GW 発表	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○	○		10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術)			○	5	
担当教員	実務経験紹介				

科目名	情報処理演習			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	介護福祉士として必要とされる情報処理活用能力のうち、Wordを利用した文書作成ができる能力を養う。						
一般目標	1. マニュアルを見なくても文書作成ができる。 2. Wordの機能のうち、文字入力(英数字、カタカナ、漢字、手書き)及び表を利用した一般的な文書作成ができる。 3. サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験3級合格(希望者のみ)						
テキスト	サーティファイ Word文書処理技能認定試験3級問題集						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) Wordを用いて、文字入力を行うことができる。							
技術(精神運動領域) 編集機能を活用し、表を利用した一般的な文書作成ができる。							
態度(情意領域) 演習において主体的に不明点を質問・解決しながら課題を作成する。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	基礎知識			Windows,Wordなどコンピュータを使用する際の基礎知識		講義	
2	Wordの活用			文字入力、フォント、段落の編集機能		講義	
3	Wordの活用			文字入力練習、ページ設定、表の編集、図形や図の挿入		講義	
4	検定説明			サーティファイ検定についての説明・模擬問題		講義	
5	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
6	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
7	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
8	模擬試験			USBを使用し時間計測・採点返却		個人 ワーク	
9	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
10	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
11	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
12	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
13	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
14	問題集演習			問題集の課題を各自練習		個人 ワーク	
15	期末試験			サーティファイ受験希望者は検定を前期試験とする 受験希望者以外は期末試験実施		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	25	
演習(GW、技術)	○	○		25	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	介護の基本Ⅱ－1			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援とするためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための講義をする。						
一般目標	1. 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。 2. 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。 3. 介護を必要とする人の生活を支援する」という観点から、介護サービスや地域連携など、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」「16 資料編」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護福祉士の役割と機能、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント等の説明ができる。							
技術(精神運動領域) 介護における安全やチームケア等について理解し実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護福祉士の役割と機能①			介護福祉士の活動の場と役割		講義	
2	介護福祉士の役割と機能②			社会福祉士及び介護福祉士法		講義	
3	介護福祉士の役割と機能③			介護福祉士養成カリキュラムの変遷		講義	
4	介護福祉士の役割と機能④			介護福祉士を支える団体		講義	
5	介護福祉士の倫理①			介護実践における倫理 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応		講義 GW	
6	介護福祉士の倫理②			日本介護福祉士会の倫理綱領		講義	
7	介護福祉士を必要とする人の 生活を支えるしくみ①			生活を支えるフォーマルサービスとは		講義	
8	介護福祉士を必要とする人の 生活を支えるしくみ②			生活を支えるインフォーマルサービスとは		講義	
9	地域連携			地域連携の意義と目的 地域連携にかかわる機関の理解		講義	
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント①			介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何か		講義	
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント②			事故防止のための対策		講義	
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント③			感染症対策		講義 演習	
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント④			個別の感染症対策		講義	
14	協働す多職種の機能と役割①			多職種連携・協働の必要性		講義 GW	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		5	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	生活支援技術Ⅱ－3			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を養う。						
一般目標	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規) 「高齢者ケアガイドライン改正版」(一般社団法人 山口県介護福祉士会)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 原理原則に基づいた技術を習得したうえで、利用者の状況・状態に応じた介護技術を説明する。							
技術(精神運動領域) 利用者個人の尊厳を維持しながら、利用者主体の生活ができる介護技術の展開ができる。 個々及び障害に応じ、潜在能力を引き出す技術が実践できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	服薬について			服薬の介護 服薬介助の基本・副作用とは何か		演習	
2	嚥法について			嚥法とは何か・嚥法の種類と効果について 氷嚢・氷枕・湯たんぽの技術		演習	
3	危険予知訓練			介護現場に潜む危険の把握と対策について		演習	
4	福祉用具を使用した移動・移乗①			スライディングシートを使用したベッド上での移動 上方移動・水平移動		演習	DVD 教材
5	福祉用具を使用した移動・移乗②			スライディングボードを使用したベッドから車いすへの移乗 リフターを使用したベッドから車いすへの移乗		演習	DVD 教材
6	重度化予防の全介助技術①			基本原理・腰痛予防のポイント		演習	DVD 教材
7	重度化予防の全介助技術②			寝返りの介助・起き上がりの介助 端座位での水平移動		演習	DVD 教材
8	重度化予防の全介助技術③			端座位での水平移動(振り返り) ベッドから車いすへの移乗		演習	DVD 教材
9	重度化予防の全介助技術④			ベッドから車いすへの移乗(振り返り) 車いすからベッドへの移乗		演習	DVD 教材
10	校外学習			ショッピングセンターにて車いすを使用した購買体験		演習	
11	介護技術の振り返り①			原理原則に基づいた衣服の着脱介護事例展開		演習	
12	介護技術の振り返り②			原理原則に基づいた車いすへの移乗介護事例展開		演習	
13	介護技術の振り返り③			原理原則に基づいた排泄の介護事例展開		演習	
14	振り返り・まとめ			国家試験対策を含めての要点整理		演習	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	生活支援技術Ⅲ－2			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	障害について、それぞれの障害の理解を深め自立支援の必要性和生活を支えるための基本的な介護技術を養う。						
一般目標	1. 障害などがあっても、なるべく自立生活が継続されるように、状況に合わせた自立支援の必要性が理解できる。 2. 現在の状態を把握し、なるべく自立生活が継続できるように、潜在能力を引き出していく介護支援が理解できる。 3. 個別性を重視した介護の展開や他職種連携の必要性を理解して、必要な介護技術を習得する。						
テキスト	「8 生活支援技術Ⅲ」（中央法規）						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) それぞれの障害について説明できる。 それぞれの障害者への自立支援の必要性、方法を説明できる。							
技術(精神運動領域) それぞれの障害者への自立支援を提供できる。							
態度(情意領域) 主体的に講義・GW・演習に参加できる。 事前準備(テキストの準備・配布物の整理整頓)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	知的障害に応じた介護		知的障害の理解と生活の理解・生活支援			講義	
2	知的障害に応じた介護		介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携の必要性			講義	
3	知的障害に応じた介護		事例検討			GW 演習	
4	精神障害に応じた介護		精神障害の理解と生活の理解・生活支援			講義	
5	精神障害に応じた介護		介護技術の展開、事例検討、他職種連携			講義 GW	
6	高次脳機能障害に応じた介護		高次脳機能障害の理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、他職種連携			講義	
7	高次脳機能障害に応じた介護		事例検討			GW 演習	
8	発達障害に応じた介護		発達障害の理解と生活の理解・生活支援			講義	
9	発達障害に応じた介護		介護技術の展開、他職種連携			講義	
10	発達障害に応じた介護		事例検討			GW 演習	
11	筋委縮側索硬化症(ALS)に応じた介護		ALSの理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携			講義	
12	パーキンソン病に応じた介護		パーキンソン病の理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携			講義	
13	悪性関節リュウマチに応じた介護		悪性関節リュウマチの理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携			講義	
14	筋ジストロフィーに応じた介護		筋ジストロフィーの理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携			講義	
15	期 末 試 験		筆 記 試 験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		10	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	事例検討(介護実習)②	思考過程を整理し、具体的な考え方について共通理解	個人ワーク GW	
17	事例検討(介護実習)②	思考過程を整理し、具体的な考え方について共通理解	個人ワーク GW	
18	各自ケース記録の見直し	各自が展開したケース記録の見直し 課題の明確化	個人ワーク	
19	各自ケース記録の見直し まとめ	ケース記録の捉え方のまとめ 各自課題の明確化	講義 個人ワーク	
20	事例②の展開	事例問題から介護過程の展開	講義 個人ワーク	
21	事例②の展開	アセスメントの記入(ケース記録1の作成)	個人ワーク	
22	事例②の展開	アセスメントの記入(ケース記録1の作成)	個人ワーク	
23	事例②の展開	計画の立案(ケース記録2の作成)	個人ワーク	
24	事例②の展開	計画の立案(ケース記録2の作成)	個人ワーク	
25	評価	評価の意義と目的 個別ケアにおける評価の重要性を理解する。	講義	
26	評価(事例②)	ケース記録への記入方法と考え方	講義	
27	評価(事例②)	ケース記録への記入方法と考え方	講義	
28	評価	介護過程における評価についての確認	小テスト	
29	まとめ	振り返り 期末試験について	講義	
30	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)			○	5	
担当教員		実務経験紹介			

科目名	介護過程B			単位数	4	時間数	60
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	実際の介護現場での事例を用いて、介護過程を展開する意義・目的が理解できるように講義する。 介護過程における介護の実施・評価についてその意義と目的が理解できるようにする。						
一般目標	1. 事例・実践を通し、アセスメントの必要性・計画の立案までの思考が理解でき提案することができる。 2. 他者の事例展開から、自己の振り返りができ計画に反映することができる。						
テキスト	「9 介護過程」「事例で読み解く介護過程の展開」(中央法規) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 他の科目で修得した知識をふまえ、実際の事例から介護過程の思考過程をふまえ展開することができる。 介護計画の実施・評価に関しての考え方が理解でき、記述することができる。							
態度(情意領域) 主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	アセスメントの振り返り 介護計画の立案		介護過程の思考過程(アセスメント・計画の立案)振り返り			講義	
2	介護計画の立案		事例①の生活課題から介護計画の立案			個人ワーク GW	
3	介護計画の立案		事例①の生活課題から介護計画の立案			個人ワーク GW	
4	介護の実施		実施における留意点を理解する。			講義	
5	介護の実施		実施後の記録の意義と留意点を理解する。			講義	
6	介護実習Ⅱ－1に向けての準備		ファイル整理 記録物の確認、ケース記録全体の留意点			講義	
7	介護実習Ⅱ－1で展開した事例の振り返り		各自が展開したケース記録を共有 気づきを各個人にフィードバック			個人ワーク GW	
8	介護実習Ⅱ－1で展開した事例の振り返り		各自が展開したケース記録を共有 気づきを各個人にフィードバック			個人ワーク GW	
9	事例検討(介護実習)①		1つ目の事例を選び、アセスメント・介護過程の立案までの流れ・思考過程を振り返る。			個人ワーク GW	
10	事例検討(介護実習)①		アセスメント・介護過程の立案までの流れ・思考過程を振り返る。			個人ワーク GW	
11	事例検討(介護実習)①		思考過程を整理し、具体的な考え方について共通理解			講義 GW	
12	事例検討(介護実習)①		ケース記録の見直し作成			個人ワーク GW	
13	事例検討(介護実習)①		ケース記録の見直し作成			個人ワーク GW	
14	事例検討(介護実習)②		2つ目の事例を選び、事例①の思考過程を参考に、介護過程の展開を考える。			個人ワーク GW	
15	事例検討(介護実習)②		事例①の思考過程を参考に、介護過程の展開を考える。			個人ワーク GW	

科目名	介護総合演習C			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
一般目標	1. 実習の教育効果を上げるため、事前の実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。 2. 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合理解し、自己の課題を明確にして専門職としての態度を身につける。 3. 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規) 「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の根拠となる知識や技術の基本について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうための必要な知識や技術を修得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護実習Ⅱー1について			実習要項・緊急連絡先の確認		講義	
2	実習準備			実習誓約書・個人票の作成		講義 演習	
3	実習準備			記録物の配布 実習記録の記入方法の説明		講義	
4	実習準備			介護技術の復習		演習	
5	グループミーティング			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義	
6	実習事前訪問			実習施設に訪問し、実習準備の確認をおこなう 事前訪問記録の作成・報告			
7							
8							
9	結団式			実習に向けての結団式・伝達事項の確認			
10	帰校日			実習内容等について情報交換・実習課題の確認 介護計画書の助言と作成		講義 演習	
11							
12							
13							
14	実習後記録物等の作成 (後指導)			礼状の作成・申し送り票の作成 自己評価表・技術チェック表の記入		講義 演習	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)	○			5	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	認知症の理解B			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	認知症の人の日常生活を支えるケアの実際を講義する。 認知症に関する制度を理解し多職種連携のあり方を養う。						
一般目標	1. 認知症の人の日常生活を支えるケアの実際を理解する。 2. 家族への支援を理解する。 3. 認知症に関する制度と多職種連携を理解する。						
テキスト	「13 認知症の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 授業で取り上げた認知症ケア、介護者支援、制度について説明できる。							
態度(情意領域) 授業に出席し、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	パーソン・センタード・ケア		パーソン・センタード・ケア 「聞く」「集める」「見つける」の3つのステップ				
2	認知症の人のアセスメント・ツール		認知症の人を理解するために センター方式 ひもときシート 健康状態のアセスメント				
3	認知症の人とのコミュニケーション		コミュニケーションの基本的な理解 認知症の人とのコミュニケーション				
4	認知症の人へのケア		食事のケア 排泄のケア 入浴のケア 清潔保持のケア				
5	認知症の人へのケア		休息と睡眠のケア 活動・いきがいのケア BPSDのケア				
6	認知症の人へのアプローチ		ユマニチュード バリデーション 認知症ケア・マッピング (DCM) 回想法 聞き書き				
7	認知症の人の終末期医療と介護		終末期医療と介護 認知症の人の終末期の主な課題				
8	環境づくり		認知症と環境 環境と向き合う力 環境的圧力 物理的な環境 3つの苦難と5つの落差 環境づくりの実際 環境づくりの ポイント				
9	家族への支援		風尾句を支える視点 家族の心理過程と葛藤 レスパイトケア 介護福祉職が行う家族への支援				
10	介護福祉職への支援		働きやすい職場環境の整備 ケアモデルを実践するための環境 整備				
11	制度、サービス、機関、地域づくり		オレンジプランから新オレンジプランへ 認知症の鑑別、診断				
12	制度、サービス、機関、地域づくり		新オレンジプラン 若年性認知症の人への支援 認知症当事 者による支援				
13	多職種連携と協働		多職種連携と協働 認知症ライフサポートモデル				
14	まとめ						
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)					
担当教員	実務経験紹介				

科目名	障害の理解B			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	障害のある人の身体機能や心理に関する基礎的知識を修得し、障害のある人の特性を理解できるように講義する。						
一般目標	1. 障害のある人に関する医学的・心理的な基礎知識を修得し、障害のある人の生活に応じた支援を理解する。 2. 本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点修得する。						
テキスト	「14 障害の理解」(中央法規) 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂) 「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 障害のある人に関する医学的・心理的な基礎知識を修得し、障害のある人の生活に応じた支援について説明できる。 本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点について説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	知的障害			知的障害とは、知的障害の原因、知的障害のある人の生活の理解		講義	
2	精神障害			精神障害とは、精神障害の原因となる疾患 精神障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義 DVD視聴	
3	高次脳機能障害			高次脳機能障害とは、高次脳機能障害の原因と症状		講義 DVD視聴	
4	高次脳機能障害			高次脳機能障害の症状とその対応		講義 GW	
5	発達障害			発達障害とは、発達障害のある人の特性の理解		講義 演習	
6	発達障害			発達障害のある人に対する支援 DVD「わたしの暮らし」3.見えてきたmy way		講義 DVD視聴	
7	難病			重症心身障害とは、重症心身障害の原因と症状		講義	
8	障害のある人に対する介護の 基本的視点と個別支援			自己決定、エンパワメント、生活ニーズの把握		講義	
9	社会資源の利用と開発、福祉用具と自立			福祉用具と自立、社会活動と自立		講義	
10	福祉用具についての演習問題			配付資料の演習課題1、2についてグループ討議		GW	
11	グループワークの発表			演習課題1、2について、各グループごとに発表		発表	
12	家族とは			家族の定義、家族形態、家族の機能 在宅利用者の家族に起こりやすい問題		講義	
13	家族への支援			家族支援の視点、家族の介護力の評価と介護負担の軽減		講義	
14	連携と協働、地域におけるサポート体制 チームアプローチ			他の福祉職との連携、保健医療職種などとの連携 行政・関係機関との連携		講義	
15	要点のまとめ、期末試験			国家試験対策も含めての要点整理、期末試験		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	20	
演習(GW、技術等)					

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	医療的ケア			単位数	4	時間数	66
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	医療チームの一員として、喀痰吸引等の医療的ケアを、安全・適切に実施できる力を養う。						
一般目標	1. 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントを理解する。 2. 対象にとって安全・安心なケアを提供できるよう、基礎的知識と確実な技術を修得する。						
テキスト	「15 医療的ケア」(中央法規) 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂) 「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントを説明できる。							
技術(精神運動領域) 基礎的知識と確実な技術を修得し、安全・安心なケアを実施できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	医療的ケアとは		医行為、医療の倫理、個人の尊重と自立			講義	
2	保健医療制度とチーム医療		喀痰吸引等制度、チーム医療(医療職と介護職の連携)			講義	
3	安全な療養生活		喀痰吸引等の安全な実施、ヒヤリハット・アクシデント報告			講義	
4	清潔保持と感染予防①		感染とは、標準予防策、介護職の感染予防			講義	
5	清潔保持と感染予防②		療養環境の清潔、消毒と滅菌、滅菌物の取り扱い方法			講義 演習	
6	健康状態の把握①		身体・精神の健康、バイタルサインの正確な測定方法			講義 演習	
7	健康状態の把握②		急変状態とは、急変時の対応と事前準備			講義	
8	救急蘇生①		一次救命処置、救急蘇生法の実際			講義 演習	
9	救急蘇生②		AEDを用いた心肺蘇生			講義 演習	
10	呼吸のしくみとはたらき		呼吸のしくみと主な呼吸器官の機能、換気とガス交換			講義	
11	いつもと違う呼吸状態 喀痰吸引とは		いつもと違う呼吸状態とは、喀痰吸引が必要な状態			講義	
12	人工呼吸器と吸引		人工呼吸器が必要な状態、人工呼吸器のしくみ 非侵襲的・侵襲的人工呼吸療法の留意点、医療職との連携			講義	
13	子どもの吸引、説明と同意		子どもの吸引の留意点、吸引の実施に関する説明と同意			講義	
14	呼吸器系の感染と予防 喀痰吸引により生じる危険		呼吸器感染の可能性を示す状態、呼吸器感染の原因と予防 吸引時に想定されるトラブルとその対応			講義	
15	急変・事故発生時の対応と事前 対策、中間確認問題		緊急を要する状態、急変・事故発生時の対応と事前対策			講義	
16	喀痰吸引で用いる器具・器材と そのしくみ		吸引の必要物品とそのしくみ、必要物品の清潔保持			講義 演習	
17	吸引の技術と留意点 ①吸引前の準備・観察		必要物品の準備と設置、吸引前の利用者の状態観察			講義 演習	
18	吸引の技術と留意点 ②吸引実施手順と留意点		吸引実施準備、説明と利用者の準備、吸引の実施(口腔内)			講義 演習	
19			吸引の実施(鼻腔内)、吸引の実施(気管カニューレ内)			講義 演習	
20	吸引の技術と留意点 ③吸引中の観察		吸引実施に伴う利用者の身体変化の確認、吸引物の確認			講義 演習	
21	吸引の技術と留意点 ④吸引後の報告、片付け、記録		吸引後の片付け方法、医療職への報告、実施後の記録			講義 演習	
22	喀痰吸引に伴うケア		痰を出しやすくするケア、体位を整えるケア、口腔内ケア			講義	

23	喀痰吸引の総まとめ(中間試験)	国家試験対策も含めての要点整理	講義	
----	-----------------	-----------------	----	--

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
24	消化器系のしくみとはたらき	消化器系器官のしくみと機能	講義	
25	消化・吸収と消化器系の症状	消化・吸収について、よくある消化器の症状	講義	
26	経管栄養とは	経管栄養が必要な状態、経管栄養のしくみと種類	講義	
27	注入する内容に関する知識 経管栄養実施上の留意点	経管栄養で注入する栄養剤について 経管栄養で起こり得る身体の異常	講義	
28	子どもの経管栄養、経管栄養に 関係する感染と予防	経管栄養を必要とする子どもとは 子どもの経管栄養の留意点、経管栄養による感染と予防	講義	
29	経管栄養を受ける利用者や家族 の気持ちと対応、説明と同意	経管栄養の感染予防策、利用者と家族の気持ちに沿った対 応と留意点、経管栄養の実施に関する説明と同意	講義	
30	経管栄養により生じる危険	経管栄養に想定されるトラブルと対応、注入後の安全確認	講義	
31	急変・事故発生時の対応と事前 対策、経管栄養の中間確認問題	緊急を要する状態、急変時の対応、医療職との連携体制	講義	
32	経管栄養で用いる器具・器材と そのしくみ	経管栄養の必要物品とそのしくみ、必要物品の清潔保持	講義・演習	
33	経管栄養の技術と留意点 ①必要物品の準備と留意点	必要物品の準備と設置、吸引前の利用者の状態観察	講義・演習	
34	②経鼻経管栄養実施手順と 留意点	経鼻経管栄養実施の準備、実施手順と留意点	講義・演習	
35	③胃ろう経管栄養実施手順と 留意点	胃ろう経管栄養実施の準備、実施手順と留意点	講義・演習	
36	④実施後の報告、片付け、 記録	実施後の片付け方法、医療職への報告、実施後の記録	講義・演習	
37	経管栄養に必要なケア	消化機能を促進するケア、体位を整えるケア、 口腔内や鼻のケア、胃ろう部のケア	講義	
38	経管栄養の総まとめ(中間試験)	国家試験対策も含めての要点整理	講義	
39	喀痰吸引、経管栄養演習	モデル人形を使用し、評価表に沿って実施・評価	演習	
40	〃	〃	演習	
41	〃	〃	演習	
42	〃	〃	演習	
43	〃	〃	演習	
44	〃	〃	演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	20	
演習(GW、技術等)					
担当教員	実務経験紹介				

科目名	就職実務B			単位数		時間数	22
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象			
授業概要	進路希望先を明確にするとともに、就職活動の流れに沿って対策を行い、準備を整える。 採用内定後の心構えについて説明する。						
一般目標	1. 自己理解・職業理解についての理解を深め、自己PRする力を身につける。 2. 求職票を作成し、履歴書の書き方を学習する。 3. 就職活動の準備をする。						
テキスト	「キャリアプランからはじめる就職活動 実践！ワークブック」(PHP研究所)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域)							
技術(精神運動領域)							
態度(情意領域)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	社会人意識とは 履歴書の作成		福祉環境における現況と求められる人材 履歴書・添え状の記載指導・履歴書の修正			講義	
2	履歴書の作成		履歴書・添え状の記載指導・履歴書の修正			講義	
3	履歴書の作成		履歴書・添え状の記載指導・履歴書の修正			講義	
4	就職試験・面接について		面接の6つポイントと心構え 面接カードを使用した面接指導			講義	
5	面接ロールプレイング		面接ロールプレイング			講義	
6	就職活動について		卒業生から在校生へ就職のアドバイス			講義	
7	面接練習		面接ロールプレイング			演習	
8	面接練習		面接ロールプレイング			演習	
9	面接練習		面接ロールプレイング			演習	
10	面接練習		面接ロールプレイング			演習	
11	就職準備		就職への心構え			演習	
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習					

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	介護の基本Ⅱ－2			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象			
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援とするためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための講義とする。						
一般目標	1. 多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。 2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。 3. 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」「16 資料編」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護従事者の安全と労働環境の整備を理解し、ケアマネジメントの説明ができる。							
技術(精神運動領域) 介護における安全やチームケア等について理解し実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	協働する多職種の機能と役割②			多職種連携・協働に求められる基本的な能力		講義	
2	協働する多職種の機能と役割③			保健・医療・福祉職の役割と機能		講義 GW	
3	協働する多職種の機能と役割④			YICリハビリテーション大学校(宇部市)での校外学習		講義 演習	
4	協働する多職種の機能と役割⑤			YICリハビリテーション大学校(宇部市)での校外学習		講義 演習	
5	協働する多職種の機能と役割⑥			校外学習の振り返り 多職種連携・協働の実際		講義 GW	
6	介護従事者の安全①			健康管理の意義と目的 働く人の健康や生活を守る制度		講義	
7	介護従事者の安全②			介護労働の特性・介護に従事する人の健康問題 睡眠の管理		講義	
8	介護従事者の安全③			こころの健康管理		講義	
9	介護従事者の安全④			身体の健康管理 介護従事者の身体 の健康障害の現状		講義	
10	介護従事者の安全⑤			作業管理と作業環境管理		講義	
11	労働環境の整備①			労働環境のついて学ぶ意義 介護従事者の労働災害		講義	
12	労働環境の整備②			事例で考える、けがと労働環境の整備		講義 GW	
13	労働環境の整備③			労働環境を整備して、けがを予防する		講義 GW	
14	要点のまとめ			国家試験対策も含めての要点整理		講義	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		5	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	生活支援技術Ⅱ－4			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象			
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を養う。						
一般目標	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)「高齢者ケアガイドライン改正版」(一般社団法人 山口県介護福祉士会)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 原理原則に基づいた技術を習得したうえで、利用者の状況・状態に応じた介護技術について説明する。							
技術(精神運動領域) 利用者個人の尊厳を維持しながら、利用者主体の生活ができる介護技術の展開ができる。 個々及び障害に応じ、潜在能力を引き出す技術が実践できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	事例1		事例概要の説明・レポート作成 グループワーク (事例展開)			演習	
2	事例1		グループワーク発表 ポイント説明と事例のまとめ(実演)			演習	
3	事例1		事例展開 事例2概要説明			演習	
4	事例2		グループワーク (事例展開) グループワーク発表			演習	
5	事例2		ポイントの説明と事例のまとめ(実演) 事例展開			演習	
6	事例2		事例展開 事例3概要説明			演習	
7	事例3		グループワーク (事例展開) グループワーク発表			演習	
8	事例3		ポイントの説明と事例のまとめ(実演) 事例展開			演習	
9	事例3		事例展開 事例4概要説明			演習	
10	事例4		グループワーク (事例展開) グループワーク発表			演習	
11	事例4		ポイントの説明と事例のまとめ(実演) 事例展開			演習	
12	事例4		事例展開 事例5概要説明			演習	
13	事例5		グループワーク (事例展開) グループワーク発表			演習	
14	事例5		ポイントの説明と事例のまとめ(実演) 事例展開・技術最終試験の概要について			演習	
15	期末試験		筆記試験・振り返り			試験	技術試験も 実施

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験(筆記)	○			30	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
技術試験		○		60	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	介護過程C			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象			
授業概要	実際の介護現場での事例を用いて、ケアカンファレンスの意義・目的を理解し介護過程の多様性が理解できるように講義する。介護過程とケアマネジメントの関係性やチームアプローチにおける介護福祉士の役割がイメージできるようにする。						
一般目標	1. 介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、介護過程を展開することができる。 2. 他の学生の事例展開やケアカンファレンスの中から幅広い視点を学び具現化することできる。 3. 介護過程におけるケアマネジメントやチームアプローチについて理解できる。						
テキスト	「9 介護過程」「事例で読み解く介護過程の展開」(中央法規) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護過程とケアマネジメントの関係性やチームアプローチにおける介護福祉士の役割が説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護実習Ⅱ－2に向けて ケース記録の振り返り			アセスメント・計画の立案・実施・評価の一連の流れを振り返り、ケース記録の捉え方を整理		講義	
2	介護実習Ⅱ－2に向けて ケース記録の振り返り			アセスメント・計画の立案・実施・評価の一連の流れを振り返り、ケース記録の捉え方を整理		講義	
3	介護実習Ⅱ－2に向けて ケース記録の振り返り			アセスメント・計画の立案・実施・評価の一連の流れを振り返り、ケース記録の捉え方を整理		講義	
4	実習後ケアカンファレンス			介護実習で担当したケースをもとにミニカンファレンスの実施 気づきを個人にフィードバック		GW 個人ワーク	
5	事例検討会準備			事例検討会の意義・目的 グループ分けをし事例提供者の選定・ケアカンファレンス		講義 GW	
6	事例検討会準備			ケース記録の見直し		GW 個人ワーク	
7	事例検討会準備			新たな課題や方向性の模索 思考過程の整理		GW 個人ワーク	
8	事例検討会準備			パワーポイントでの資料作り		GW 個人ワーク	
9	事例検討会準備			パワーポイントでの資料作り		GW 個人ワーク	
10	事例検討会準備			パワーポイントでの資料作り		GW 個人ワーク	
11	事例検討会準備			発表会準備		GW 個人ワーク	資料提出
12	事例検討会			ケース記録とパワーポイント資料で事例発表 (1グループ20分)		発表会	
13	事例検討会			ケース記録とパワーポイント資料で事例発表 (1グループ20分)		発表会	
14	介護過程とケアマネジメント			介護過程とケアマネジメントの関係性 チームアプローチにおける介護福祉士の役割		講義	
15	期末試験			筆記試験 振り返り・国家試験対策		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)	○		○	20	
担当教員	実務経験紹介				

科目名	介護総合演習D			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象			
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
一般目標	1. 実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。 2. 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合理解し、自己の課題を明確にし専門職としての態度を身につける。 3. 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規) 「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の根拠となる知識や技術の基本について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうための必要な知識や技術を修得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護実習Ⅱー1について			実習要項・緊急連絡先の確認		講義	
2	実習準備			実習誓約書・個人票の作成		講義 演習	
3	実習準備			記録物の配布 実習記録の記入方法		講義	
4	実習準備			実習記録の振り返り		演習	
5	グループミーティング			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義	
6	実習事前訪問			実習施設に訪問し、実習準備の確認をおこなう 事前訪問記録の作成・報告			
7							
8							
9	結団式			実習に向けての結団式・伝達事項の確認			
10	帰校日			実習内容等について情報交換・実習課題の確認 介護計画書の助言と作成		講義 演習	
11							
12							
13							
14	実習後記録物等の作成 (後指導)			礼状の作成・申し送り票の作成 自己評価表・技術チェック表の記入		講義 演習	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)	○			5	

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	こころとからだのしくみD			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象			
授業概要	心理的側面への配慮について理解し、死に対する心が理解できるよう講義する。						
一般目標	1. 人間の欲求・人間の心のしくみを知る。 2. 死生観を明確にもち、死に行く人を受容できるような寛容、寛大な心を養う。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人間の欲求の仕組みを説明できる。 死の受容過程を理解し説明できる。 死までの身体の変化を理解し説明できる。							
技術(精神運動領域) 死にゆく人の身体・心の変化に対応することができる。							
態度(情意領域) 主体的にGWに参加できる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	「健康」とは何か		「健康」の定義			講義	
2	人間の欲求		基本的欲求と社会的欲求			講義 GW	
3	自己実現と尊厳		自立への意欲・自己概念			講義 GW	
4	こころのしくみの基礎		「こころ」とは何か			講義	
5	こころのしくみの基礎		学習・記憶・思考のしくみ			講義	
6	こころのしくみの基礎		感情・認知のしくみ			講義	
7	こころのしくみの基礎		適応のしくみ			講義 GW	
8	「死」を理解する		現代社会における「死」			講義	
9	「死」の捉え方		尊厳死・安楽死			講義 GW	
10	終末期		死の定義			講義	
11	身体機能の変化		終末期・臨終期の身体機能の変化			講義	
12	臨終期の対応		日本人の死生観			講義	
13	死に対する心の理解		キューブラー・ロス「死ぬ瞬間」			講義 GW	
14	エンゼルケア		終末を迎えた後のケア			講義 GW	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)					

担当教員		実務経験紹介		
------	--	--------	--	--

科目名	卒業研究			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象			
授業概要	実習における担当ケースを事例研究することで、問題点を科学的に分析し、利用者の自立や向上、発達に目を向け、よりよい援助の方法を見つけ出すことができるよう講義する。						
一般目標	介護過程の展開をベースに、事例研究の方法を段階的に学び理解する。 類似したテーマに関する先行研究を行い、専門に通じる文献の検索の仕方を身につけ、確かな研究書の基盤づくりを実施する。						
テキスト	「介護事例研究の手引き」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) ケースレポートのまとめ方、論文の書き方の基礎を身につけ、それを他者に説明できる。							
技術(精神運動領域) 2年間の介護実習での介護過程のプロセスをもとに、事例研究を行う。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	卒業研究の流れ			研究過程を理解する		講義	
2	事例研究の進め方とまとめ方			1. 序論・本論・結論、執筆の始め方、論文構想の変更 2. タイトルと目次 3. 「はじめに」 4. 事例の紹介		講義	
3	事例研究の進め方とまとめ方			5. 研究内容 6. 考察 7. 結論 8. 謝辞 9. 文献、資料 10. 抄録 11. 全体の整合性 等		講義	
4	論文構想の作成			研究計画書作成		演習	
5	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
6	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
7	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
8	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
9	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
10	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
11	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
12	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
13	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
14	事例研究論文を書く			論文作成		演習	
15	事例研究論文を書く			論文作成		演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート	○	○		100	
授業態度					
演習(GW、技術)					
担当教員	実務経験紹介				

科目名	マネジメント論			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	社会のニーズに対応した質の高い介護ケアの提供のために、介護専門職としての実践者の育成と、個々の能力を活かし、組織力を高めるマネジメントが求められる。また、チーム医療の充実が求められる中、保健・医療・福祉チームの一員として、マネジメントの視点から介護福祉士の果たす役割を考えられるように講義する。						
一般目標	1. 介護管理における介護ケアのマネジメントを理解する。 2. チーム医療における介護福祉士の役割を理解できる。 3. マネジメントに必要な知識や技術が習得できる。						
テキスト	参考文献:系統看護学講座 看護管理(医学書院) 社会福祉士養成講座 福祉サービスの組織と経営(社会福祉士養成講座編集委員会)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)

マネジメントプロセスの構成要素を4つ挙げ、それぞれの意味を説明できる。
福祉施設等における資源(人的・物的・財的)活用のポイントを説明できる。
チーム医療に必要な機能について説明できる。
組織の理念・目標達成のための目標管理の意義と方法が説明できる。
リーダーに必要な能力を3つあげ、それぞれの能力について具体的に説明できる。

態度(情意領域)

グループワーク及び演習に主体的に参加し、協議・情報共有を行い、それぞれの役割を果たすことができる。

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
1	I 介護とマネジメント	1. 介護管理とは マネジメントとは 2. マネジメントプロセス	講義	
2	II 組織とマネジメント	1. 組織目標達成のためのマネジメント 2. 資源の活用	講義	
3	III組織とマネジメント	1. 組織化 2. 組織図	講義	
4	IV他職種との連携・協働	1. チーム医療に必要な機能 2. 他職種との連携・協働 チームカンファレンス	講義 演習	
5	V介護業務とマネジメント	1. 理念と組織目標、目標管理 2. 介護報酬と診療報酬	講義	
6	VI介護業務とマネジメント	1. 福祉サービスの質の評価 2. 介護福祉チームのリーダーの役割	講義	
7	VIIチーム機能	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 人をその気にさせる魔法のことば「PEP TALK」	GW	
8	VIIIチーム機能	1. 組織の一員としての役割遂行	GW	
9	特別講座	これからの介護現場に求められているものを中心に、実際の介護現場にいる様々な立場の方からの講義	講義	外部 講師
10				
11	特別講座		講義	外部 講師
12				
13	特別講座		講義	外部 講師
14	特別講座		講義	外部 講師
15	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)			○	30	
担当教員	実務経験紹介				